

1

解答解説のページへ

 $f(x), g(t)$ を

$$f(x) = x^3 - x^2 - 2x + 1, \quad g(t) = \cos 3t - \cos 2t + \cos t$$

とおく。

- (1) $2g(t) - 1 = f(2\cos t)$ が成り立つことを示せ。
- (2) $\theta = \frac{\pi}{7}$ のとき, $2g(\theta)\cos\theta = 1 + \cos\theta - 2g(\theta)$ が成り立つことを示せ。
- (3) $2\cos\frac{\pi}{7}$ は 3 次方程式 $f(x) = 0$ の解であることを示せ。

2

解答解説のページへ

n は自然数とする。

(1) $1 \leq k \leq n$ を満たす自然数 k に対して

$$\int_{\frac{k-1}{2n}\pi}^{\frac{k}{2n}\pi} \sin 2nt \cos t \, dt = (-1)^{k+1} \frac{2n}{4n^2 - 1} \left(\cos \frac{k}{2n} \pi + \cos \frac{k-1}{2n} \pi \right)$$

が成り立つことを示せ。

(2) 媒介変数 t によって、

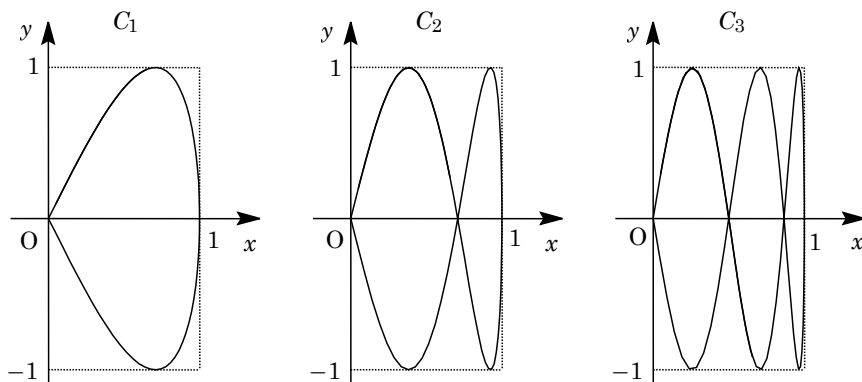
$$x = \sin t, \quad y = \sin 2nt \quad (0 \leq t \leq \pi)$$

と表される曲線 C_n で囲まれた部分の面積 S_n を求めよ。ただし必要なら

$$\sum_{k=1}^{n-1} \cos \frac{k}{2n} \pi = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{\tan \frac{\pi}{4n}} - 1 \right) \quad (n \geq 2)$$

を用いてよい。

(3) 極限值 $\lim_{n \rightarrow \infty} S_n$ を求めよ。

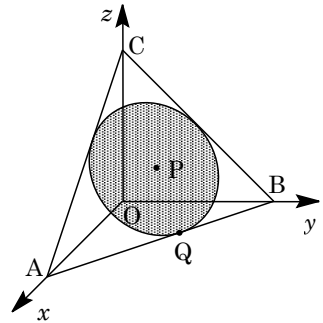


3

xyz 空間において、点 $A(1, 0, 0)$ 、 $B(0, 1, 0)$ 、 $C(0, 0, 1)$ を通る平面上にあり、正三角形 ABC に内接する円板を D とする。円板 D の中心を P 、円板 D と辺 AB の接点を Q とする。

- (1) 点 P と点 Q の座標を求めよ。
- (2) 円板 D が平面 $z=t$ と共有点をもつ t の範囲を求めよ。
- (3) 円板 D と平面 $z=t$ の共通部分が線分であるとき、その線分の長さを t を用いて表せ。
- (4) 円板 D を z 軸のまわりに回転してできる立体の体積を求めよ。

解答解説のページへ



4

解答解説のページへ

3つの数列 $\{a_n\}$, $\{b_n\}$, $\{c_n\}$ が

$$a_{n+1} = -b_n - c_n, \quad b_{n+1} = -c_n - a_n, \quad c_{n+1} = -a_n - b_n \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

および $a_1 = a$, $b_1 = b$, $c_1 = c$ を満たすとする。ただし, a, b, c は定数とする。

- (1) $p_n = a_n + b_n + c_n$ ($n=1, 2, 3, \dots$)で与えられる数列 $\{p_n\}$ の初項から第 n 項までの和 S_n を求めよ。
- (2) 数列 $\{a_n\}$, $\{b_n\}$, $\{c_n\}$ の一般項を求めよ。
- (3) $q_n = (-1)^n \{(a_n)^2 + (b_n)^2 + (c_n)^2\}$ ($n=1, 2, 3, \dots$)で与えられる数列 $\{q_n\}$ の初項から第 $2n$ 項までの和を T_n とする。 $a+b+c$ が奇数であれば, すべての自然数 n に対して T_n が正の奇数であることを数学的帰納法を用いて示せ。

5

解答解説のページへ

2 次の正方行列 $A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}$ について以下の問いに答えよ。ただし、 a, b, c, d は実数とする。

- (1) $A^2 = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$ を満たす A は存在しないことを示せ。
- (2) $A^2 = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ -1 & 0 \end{pmatrix}$ を満たす A をすべて求めよ。
- (3) (2) で求めた A のそれぞれについて $A + A^2 + A^3 + \dots + A^{2013}$ を求めよ。

6

解答解説のページへ

楕円 $C: \frac{x^2}{16} + \frac{y^2}{9} = 1$ の、直線 $y = mx$ と平行な 2 接線を l_1, l_1' とし、 l_1, l_1' に直交する C の 2 接線を l_2, l_2' とする。

- (1) l_1, l_1' の方程式を m を用いて表せ。
- (2) l_1 と l_1' の距離 d_1 および l_2 と l_2' の距離 d_2 をそれぞれ m を用いて表せ。ただし、平行な 2 直線 l, l' の距離とは、 l 上の 1 点と直線 l' の距離である。
- (3) $(d_1)^2 + (d_2)^2$ は m によらず一定であることを示せ。
- (4) l_1, l_1', l_2, l_2' で囲まれる長方形の面積 S を d_1 を用いて表せ。さらに m が変化するとき、 S の最大値を求めよ。

1

問題のページへ

(1) $f(x) = x^3 - x^2 - 2x + 1$, $g(t) = \cos 3t - \cos 2t + \cos t$ に対し,

$$\begin{aligned} 2g(t) - 1 &= 2\cos 3t - 2\cos 2t + 2\cos t - 1 \\ &= 2(4\cos^3 t - 3\cos t) - 2(2\cos^2 t - 1) + 2\cos t - 1 \\ &= 8\cos^3 t - 4\cos^2 t - 4\cos t + 1 = f(2\cos t) \end{aligned}$$

(2) $h(\theta) = 2g(\theta)(\cos \theta + 1)$ とおくと,

$$\begin{aligned} h(\theta) &= 2(\cos 3\theta - \cos 2\theta + \cos \theta)(\cos \theta + 1) \\ &= 2(\cos 3\theta \cos \theta - \cos 2\theta \cos \theta + \cos^2 \theta + \cos 3\theta - \cos 2\theta + \cos \theta) \\ &= \cos 4\theta + \cos 2\theta - \cos 3\theta - \cos \theta + 1 + \cos 2\theta + 2(\cos 3\theta - \cos 2\theta + \cos \theta) \\ &= \cos 4\theta + \cos 3\theta + \cos \theta + 1 \end{aligned}$$

ここで, $\theta = \frac{\pi}{7}$ のとき,

$$\cos 4\theta + \cos 3\theta = \cos \frac{4}{7}\pi + \cos \frac{3}{7}\pi = -\cos \frac{3}{7}\pi + \cos \frac{3}{7}\pi = 0$$

よって, $h(\theta) = \cos \theta + 1$ となり, $2g(\theta)\cos \theta + 2g(\theta) = \cos \theta + 1$ から,

$$2g(\theta)\cos \theta = 1 + \cos \theta - 2g(\theta)$$

(3) (2)より, $2g(\theta)(\cos \theta + 1) = \cos \theta + 1$ であり, $\cos \theta + 1 \neq 0$ より $2g(\theta) = 1$ すると, (1)より $f(2\cos \theta) = 0$ となり, $2\cos \theta = 2\cos \frac{\pi}{7}$ は $f(x) = 0$ の解である。

【解説】

三角関数の計算はやや難しいものの, 誘導に従えば, (3)の結論へとスムーズにつながります。

2

問題のページへ

$$(1) I_k = \int_{\frac{k-1}{2n}\pi}^{\frac{k}{2n}\pi} \sin 2nt \cos t \, dt = \frac{1}{2} \int_{\frac{k-1}{2n}\pi}^{\frac{k}{2n}\pi} \{ \sin(2n+1)t + \sin(2n-1)t \} \, dt \text{ とおくと,}$$

$$\begin{aligned} I_k &= -\frac{1}{2} \left[\frac{\cos(2n+1)t}{2n+1} \right]_{\frac{k-1}{2n}\pi}^{\frac{k}{2n}\pi} - \frac{1}{2} \left[\frac{\cos(2n-1)t}{2n-1} \right]_{\frac{k-1}{2n}\pi}^{\frac{k}{2n}\pi} \\ &= -\frac{\cos \frac{2n+1}{2n} k\pi - \cos \frac{2n+1}{2n} (k-1)\pi}{2(2n+1)} - \frac{\cos \frac{2n-1}{2n} k\pi - \cos \frac{2n-1}{2n} (k-1)\pi}{2(2n-1)} \end{aligned}$$

ここで, $\cos \frac{2n \pm 1}{2n} k\pi = \cos \left(k\pi \pm \frac{k}{2n}\pi \right) = (-1)^k \cos \frac{k}{2n}\pi$ より,

$$\begin{aligned} I_k &= -\frac{(-1)^k \cos \frac{k}{2n}\pi + (-1)^k \cos \frac{k-1}{2n}\pi}{2(2n+1)} - \frac{(-1)^k \cos \frac{k}{2n}\pi + (-1)^k \cos \frac{k-1}{2n}\pi}{2(2n-1)} \\ &= (-1)^{k+1} \left\{ \frac{1}{2(2n+1)} + \frac{1}{2(2n-1)} \right\} \left(\cos \frac{k}{2n}\pi + \cos \frac{k-1}{2n}\pi \right) \\ &= (-1)^{k+1} \frac{2n}{4n^2-1} \left(\cos \frac{k}{2n}\pi + \cos \frac{k-1}{2n}\pi \right) \end{aligned}$$

(2) C_n : $x = \sin t$, $y = \sin 2nt$ ($0 \leq t \leq \pi$) に対して, $x = f(t)$, $y = g(t)$ とおくと,

$$f(\pi-t) = \sin(\pi-t) = \sin t = f(t)$$

$$g(\pi-t) = \sin(2n\pi - 2nt) = -\sin 2nt = -g(t)$$

これより, 曲線 C_n の $0 \leq t \leq \frac{\pi}{2}$ の部分と $\frac{\pi}{2} \leq t \leq \pi$ の部分は x 軸対称になる。

さて, $0 \leq t \leq \frac{\pi}{2}$ において $f(t) = \sin t$ は単調に増加し, また $g(t) = \sin 2nt = 0$ とすると, k を整数として $2nt = k\pi$, $t = \frac{k}{2n}\pi$ である。

これより, 曲線 C_n で囲まれた部分の面積 S_n は,

$$\frac{S_n}{2} = \int_0^{\frac{\pi}{2}} |g(t)| f'(t) \, dt = \int_0^{\frac{\pi}{2}} |\sin 2nt| \cos t \, dt = \sum_{k=1}^n \int_{\frac{k-1}{2n}\pi}^{\frac{k}{2n}\pi} |\sin 2nt| \cos t \, dt$$

ここで, 区間 $\frac{k-1}{2n}\pi \leq t \leq \frac{k}{2n}\pi$ において, $g(t) = \sin 2nt$ の符号は変わらないので,

$$\sum_{k=1}^n \int_{\frac{k-1}{2n}\pi}^{\frac{k}{2n}\pi} |\sin 2nt| \cos t \, dt = \sum_{k=1}^n \left| \int_{\frac{k-1}{2n}\pi}^{\frac{k}{2n}\pi} \sin 2nt \cos t \, dt \right| = \sum_{k=1}^n |I_k|$$

(1)より, $|I_k| = \frac{2n}{4n^2-1} \left(\cos \frac{k}{2n}\pi + \cos \frac{k-1}{2n}\pi \right)$ であり,

$$\frac{S_n}{2} = \sum_{k=1}^n |I_k| = \frac{2n}{4n^2-1} \sum_{k=1}^n \left(\cos \frac{k}{2n}\pi + \cos \frac{k-1}{2n}\pi \right)$$

そこで, 与えられた関係式 $\sum_{k=1}^{n-1} \cos \frac{k}{2n}\pi = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{\tan \frac{\pi}{4n}} - 1 \right)$ を利用すると,

$$\begin{aligned}
 S_n &= \frac{4n}{4n^2-1} \left\{ \frac{1}{2} \left(\frac{1}{\tan \frac{\pi}{4n}} - 1 \right) + \cos \frac{\pi}{2} + \cos 0 + \frac{1}{2} \left(\frac{1}{\tan \frac{\pi}{4n}} - 1 \right) \right\} \\
 &= \frac{4n}{4n^2-1} \cdot \frac{1}{\tan \frac{\pi}{4n}}
 \end{aligned}$$

$$(3) \quad \lim_{n \rightarrow \infty} S_n = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{4n}{4n^2-1} \cdot \frac{1}{\tan \frac{\pi}{4n}} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{16n^2}{\pi(4n^2-1)} \cdot \frac{\frac{\pi}{4n}}{\tan \frac{\pi}{4n}} = \frac{4}{\pi}$$

[解説]

問題に曲線が示してありますが、これがヒントとなっています。(2)において、積分区間を分割し、絶対値を積分の外側に出すことへの誘導です。なお、2 題続けての三角関数ですが、本問の方が計算に時間がかかります。

3

問題のページへ

- (1) 点 P は△ABC の重心, 点 Q は辺 AB の中点より,

$$P\left(\frac{1}{3}, \frac{1}{3}, \frac{1}{3}\right), Q\left(\frac{1}{2}, \frac{1}{2}, 0\right)$$

- (2) $PQ^2 = \left(\frac{1}{3} - \frac{1}{2}\right)^2 + \left(\frac{1}{3} - \frac{1}{2}\right)^2 + \left(\frac{1}{3}\right)^2 = \frac{1}{6}$ であるので,

点 P を中心とし半径 PQ の球面およびその内部は,

$$\left(x - \frac{1}{3}\right)^2 + \left(y - \frac{1}{3}\right)^2 + \left(z - \frac{1}{3}\right)^2 \leq \frac{1}{6} \dots\dots\dots ①$$

3 点 A, B, C を通る平面は, $x + y + z = 1 \dots\dots\dots ②$

これより, 円板 D は, ①と②の連立式として表される。

さて, 円板 D と平面 $z = t \dots\dots\dots ③$ が共有点をもつ条件は,

③と①②を連立して,

$$\left(x - \frac{1}{3}\right)^2 + \left(y - \frac{1}{3}\right)^2 \leq \frac{1}{6} - \left(t - \frac{1}{3}\right)^2, \quad x + y = 1 - t$$

すると, 平面 $z = t$ 上で, 点 $\left(\frac{1}{3}, \frac{1}{3}\right)$ と直線 $x + y = 1 - t$

の距離 $\frac{\left|\frac{1}{3} + \frac{1}{3} - 1 + t\right|}{\sqrt{1^2 + 1^2}} = \frac{1}{\sqrt{2}} \left|t - \frac{1}{3}\right|$ が, 半径 $\sqrt{\frac{1}{6} - \left(t - \frac{1}{3}\right)^2}$

以下であることから,

$$\frac{1}{\sqrt{2}} \left|t - \frac{1}{3}\right| \leq \sqrt{\frac{1}{6} - \left(t - \frac{1}{3}\right)^2}, \quad \left(t - \frac{1}{3}\right)^2 \leq \frac{1}{3} - 2\left(t - \frac{1}{3}\right)^2, \quad \left(t - \frac{1}{3}\right)^2 \leq \frac{1}{9}$$

よって, $-\frac{1}{3} \leq t - \frac{1}{3} \leq \frac{1}{3}$ より, $0 \leq t \leq \frac{2}{3}$ となる。

- (3) (2) のとき, 共通部分の線分の長さを l とすると,

$$\left(\frac{l}{2}\right)^2 = \left\{\frac{1}{6} - \left(t - \frac{1}{3}\right)^2\right\} - \frac{1}{2}\left(t - \frac{1}{3}\right)^2 = t - \frac{3}{2}t^2$$

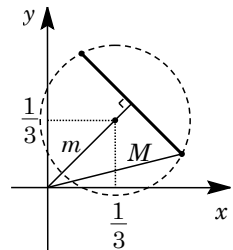
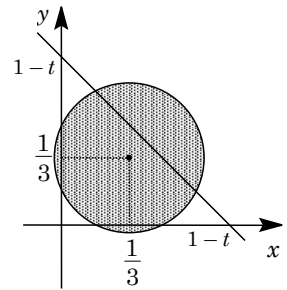
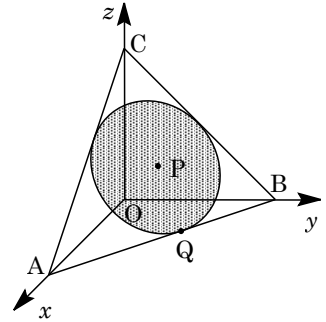
よって, $l = 2\sqrt{t - \frac{3}{2}t^2}$ である。

- (4) 平面 $z = t$ 上で, 共通部分の線分を z 軸のまわりに回転したときできるドーナツ形の外径を M , 内径を m とし, その面積を $S(t)$ とすると,

$$S(t) = \pi(M^2 - m^2) = \pi\left(\frac{l}{2}\right)^2 = \pi\left(t - \frac{3}{2}t^2\right)$$

よって, 円板 D を z 軸のまわりに回転してできる立体の体積 V は,

$$V = \int_0^{\frac{2}{3}} \pi\left(t - \frac{3}{2}t^2\right) dt = -\frac{3}{2}\pi \int_0^{\frac{2}{3}} t\left(t - \frac{2}{3}\right) dt = \frac{3}{2}\pi \cdot \frac{1}{6} \left(\frac{2}{3}\right)^3 = \frac{2}{27}\pi$$



【解説】

平面図形の回転体の体積を求める有名題です。空間図形の方程式を利用しています。

4

問題のページへ

(1) 条件より, $a_1 = a$, $b_1 = b$, $c_1 = c$ であり, $n = 1, 2, 3, \dots$ において,

$$a_{n+1} = -b_n - c_n, \quad b_{n+1} = -c_n - a_n, \quad c_{n+1} = -a_n - b_n$$

さて, $p_n = a_n + b_n + c_n$ とすると, $p_1 = a + b + c$ であり,

$$p_{n+1} = a_{n+1} + b_{n+1} + c_{n+1} = -2(a_n + b_n + c_n) = -2p_n$$

よって, $p_n = p_1(-2)^{n-1} = (a + b + c)(-2)^{n-1}$ となり, 第 n 項までの和 S_n は,

$$S_n = \frac{(a+b+c)\{1-(-2)^n\}}{1-(-2)} = \frac{a+b+c}{3}\{1-(-2)^n\}$$

(2) (1)より, $a_{n+1} = -b_n - c_n = a_n - p_n$ となり, $n \geq 2$ において,

$$a_n = a_1 - \sum_{k=1}^{n-1} p_k = a - \frac{a+b+c}{3}\{1-(-2)^{n-1}\} \quad (n=1 \text{ のときも成立})$$

$$\text{同様にして, } b_n = b - \frac{a+b+c}{3}\{1-(-2)^{n-1}\}, \quad c_n = c - \frac{a+b+c}{3}\{1-(-2)^{n-1}\}$$

(3) $q_n = (-1)^n \{(a_n)^2 + (b_n)^2 + (c_n)^2\}$, $T_n = \sum_{l=1}^{2n} q_l$ に対し, $a + b + c$ が奇数のとき,すべての自然数 n において T_n は正の奇数であることを数学的帰納法を用いて示す。(i) $n=1$ のとき $T_1 = q_1 + q_2$ より,

$$\begin{aligned} T_1 &= -(a_1)^2 - (b_1)^2 - (c_1)^2 + (a_2)^2 + (b_2)^2 + (c_2)^2 \\ &= -a^2 - b^2 - c^2 + (-b-c)^2 + (-c-a)^2 + (-a-b)^2 \\ &= a^2 + b^2 + c^2 + 2bc + 2ca + 2ab = (a+b+c)^2 \end{aligned}$$

よって, T_1 は正の奇数である。(ii) $n=k$ のとき T_k が正の奇数であると仮定すると,

$$\begin{aligned} T_{k+1} &= T_k + q_{2k+1} + q_{2k+2} \\ &= T_k - (a_{2k+1})^2 - (b_{2k+1})^2 - (c_{2k+1})^2 + (a_{2k+2})^2 + (b_{2k+2})^2 + (c_{2k+2})^2 \\ &= T_k + (a_{2k+1} + b_{2k+1} + c_{2k+1})^2 = T_k + (p_{2k+1})^2 \end{aligned}$$

ここで, (1)から, $(p_{2k+1})^2 = \{(a+b+c)(-2)^{2k}\}^2 = (a+b+c)^2 \cdot 16^k$ となり, $(p_{2k+1})^2$ は正の偶数であるので, T_{k+1} は正の奇数となる。(i)(ii)より, すべての自然数 n において T_n は正の奇数である。

[解説]

連立漸化式の基本的な問題です。ただ, 出現する文字が多く, 気疲れしてしまいます。(3)は, 証明ですが, やや省略気味に記しています。

5

問題のページへ

$$(1) A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \text{ のとき, } A^2 = \begin{pmatrix} a^2 + bc & ab + bd \\ ac + cd & bc + d^2 \end{pmatrix} \text{ となり, } A^2 = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix} \text{ とすると,}$$

$$a^2 + bc = 0 \cdots \cdots \textcircled{1}, \quad b(a + d) = 1 \cdots \cdots \textcircled{2}$$

$$c(a + d) = 1 \cdots \cdots \textcircled{3}, \quad bc + d^2 = 0 \cdots \cdots \textcircled{4}$$

②③より, $(b - c)(a + d) = 0$ となり, ②から $a + d \neq 0$ なので, $b = c$

①に代入すると, $a^2 + b^2 = 0$ から $a = b = 0$ となるが, これは②を満たさない。

よって, $A^2 = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$ を満たす A は存在しない。

$$(2) (1) \text{ と同様にして, } A^2 = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ -1 & 0 \end{pmatrix} \text{ から,}$$

$$a^2 + bc = 0 \cdots \cdots \textcircled{5}, \quad b(a + d) = 1 \cdots \cdots \textcircled{6}$$

$$c(a + d) = -1 \cdots \cdots \textcircled{7}, \quad bc + d^2 = 0 \cdots \cdots \textcircled{8}$$

⑥⑦より, $(b + c)(a + d) = 0$ となり, ⑥から $a + d \neq 0$ なので, $c = -b \cdots \cdots \textcircled{9}$

⑨を⑤に代入すると, $a^2 - b^2 = 0$ から, $b = \pm a \cdots \cdots \textcircled{10}$

⑤⑧より, $a^2 - d^2 = 0$ となり, $a + d \neq 0$ から, $d = a \cdots \cdots \textcircled{11}$

⑪を⑥に代入すると $2ab = 1$ となり, ⑩から $b = a$ だけが適し, ⑨⑪から,

$$a = \pm \frac{1}{\sqrt{2}}, \quad b = \pm \frac{1}{\sqrt{2}}, \quad c = \mp \frac{1}{\sqrt{2}}, \quad d = \pm \frac{1}{\sqrt{2}} \quad (\text{複号同順})$$

よって, $A = \pm \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ -1 & 1 \end{pmatrix}$ である。

(3) E を単位行列, O を零行列とすると, $(A^2)^2 + E = O$ から, $A^4 = -E$, $A^8 = E$ となり, これより, $A^5 = -A$, $A^6 = -A^2$, $A^7 = -A^3$ に注意して,

$$A + A^2 + A^3 + A^4 + A^5 + A^6 + A^7 + A^8 = O$$

そこで, $S = A + A^2 + A^3 + \cdots + A^{2013}$ とおくと, $2008 = 8 \times 251$ から,

$$S = A^{2009} + A^{2010} + A^{2011} + A^{2012} + A^{2013} = A + A^2 + A^3 - E - A$$

$$= A^2 + A^3 - E = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ -1 & 0 \end{pmatrix} \pm \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ -1 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ -1 & 0 \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$$

$$= \begin{pmatrix} -1 & 1 \\ -1 & -1 \end{pmatrix} \pm \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} -1 & 1 \\ -1 & -1 \end{pmatrix} = \left(1 \pm \frac{1}{\sqrt{2}}\right) \begin{pmatrix} -1 & 1 \\ -1 & -1 \end{pmatrix}$$

[解説]

行列の成分に関する計算問題です。なお, (2)の行列 A は原点を中心とする -45° または 135° の回転を表します。これが(3)への誘導となっています。

6

問題のページへ

(1) $C: \frac{x^2}{16} + \frac{y^2}{9} = 1$ から, $9x^2 + 16y^2 = 9 \cdot 16 \dots\dots\dots ①$

直線 $y = mx$ に平行な直線を $y = mx + n \dots\dots ②$ とおき, ①に代入すると,

$$9x^2 + 16(mx + n)^2 = 9 \cdot 16$$

$$(9 + 16m^2)x^2 + 32mnx + 16n^2 - 9 \cdot 16 = 0$$

①②が接することより,

$$D/4 = 16^2 m^2 n^2 - (9 + 16m^2)(16n^2 - 9 \cdot 16) = 0$$

$$16m^2 n^2 - (9 + 16m^2)(n^2 - 9) = 0, \quad n^2 - 9 - 16m^2 = 0$$

よって, $n = \pm\sqrt{16m^2 + 9}$ から, l_1, l_1' の方程式は, $y = mx \pm \sqrt{16m^2 + 9}$

(2) 原点と l_1, l_1' の距離はともに $\frac{\sqrt{16m^2 + 9}}{\sqrt{m^2 + 1}}$ なので, l_1 と l_1' の距離 d_1 は,

$$d_1 = \frac{2\sqrt{16m^2 + 9}}{\sqrt{m^2 + 1}} \dots\dots\dots ③$$

また, l_2 と l_2' の距離 d_2 は, $m \neq 0$ のとき, ③において m を $-\frac{1}{m}$ に置き換え,

$$d_2 = \frac{2\sqrt{16\left(-\frac{1}{m}\right)^2 + 9}}{\sqrt{\left(-\frac{1}{m}\right)^2 + 1}} = \frac{2\sqrt{9m^2 + 16}}{\sqrt{m^2 + 1}} \dots\dots\dots ④$$

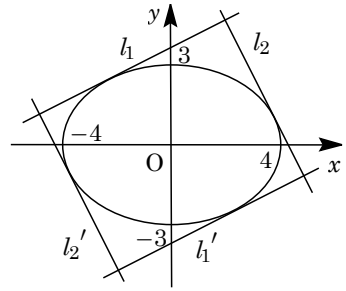
なお, $m = 0$ のときは $d_2 = 8$ となるが, このときも④は成立している。

(3) $(d_1)^2 + (d_2)^2 = \frac{4(16m^2 + 9)}{m^2 + 1} + \frac{4(9m^2 + 16)}{m^2 + 1} = 100$

(4) l_1, l_1', l_2, l_2' で囲まれる長方形の面積 S は, $S = d_1 d_2 = d_1 \sqrt{100 - (d_1)^2}$
 ここで, $d_1 = t$ とおくと, $6 \leq t < 8$ となり,

$$S = t\sqrt{100 - t^2} = \sqrt{100t^2 - t^4} = \sqrt{-(t^2 - 50)^2 + 2500}$$

よって, $36 \leq t^2 < 64$ から, $t^2 = 50$ のとき S は最大値 $\sqrt{2500} = 50$ をとる。



[解説]

楕円の有名問題です。誘導が非常に細かく付いています。